

平成14年度小学校 Joyful English Learning Practice Example

小学校名	飛騨地区小学校	対象学年	第3, 4学年	実施時期	11月		
題材名	「どうしたの」 "What's the matter?"						
主な表現 補助資料	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-right: 1px dashed black; padding-right: 5px;"> A,B : Hi. - Hi. (Hello.) (A : I' m sick .) B : What's the matter ? </td> <td style="width: 50%; padding-left: 5px;"> A : I have a headache. B : That's too bad. Take care. A : Thank you. </td> </tr> </table> <p>----- headache, toothache, stomachache, fever, cold, cut, scratch, scar, broken bone, a pain in the knee, hay fever などの絵カードおよび絵のワークシート</p>					A,B : Hi. - Hi. (Hello.) (A : I' m sick .) B : What's the matter ?	A : I have a headache. B : That's too bad. Take care. A : Thank you.
A,B : Hi. - Hi. (Hello.) (A : I' m sick .) B : What's the matter ?	A : I have a headache. B : That's too bad. Take care. A : Thank you.						
本時の 目標	・英語での病気の言い方を知り, 人に病気の状態を尋ねたり, それに答えたりする表現に親しむ。						
学 習 活 動	教師の指導・援助		留 意 点				
<p>1. ハロータイム. " Hello, everyone ." " Hello, ~ . "</p> <p>2. ウォーミングアップタイム 食べ物の言葉を言った時だけ, 手をたたこう。 apple-orange-banana-egg-cabbage-chocolate-pumpkin-chair- ...</p> <p>3. プラクティスタイム 病気の言葉を英語で言ってみよう。 ・先生のあとについて発音してみよう。 headache, toothache, stomachache, fever, cold, cut, scratch, scar, broken bone, hay fever ・病気の言葉をおぼえるために, カルタとりをする。 病気について尋ねる言い方をおぼえよう。 ・モデル対話を聞いて, 尋ね方をおぼえよう。 A,B : Hi. (Hello.) Let's play Janken . A : What's the matter ? B : I have a headache. A : That's too bad. Take care. (A gives B one tiddleywink.) B : Thank you . ・2つのグループに別れて上の会話を練習する。</p> <p>4. チャレンジタイム 歩き回って上の会話をする。 最後に病名を復習する。 ・もらったおはじきの数を数える。(数の復習)</p> <p>5. グッドバイタイム (Good-bye, everyone. Good-bye, ~ .)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・JTE, ALT, HRT の3人で単語を変える。 ・よく聞いているよう指示する。 ・ALT が発音する。一語につき1回でなく, それぞれ2~3回繰り返す。また, 児童がわかりやすいように, 大きめの絵カードを提示する。 ・ALT とJTE でモデル対話を示す。 ・1人5個ずつおはじきを与える。 ・元気にはっきり発音できるときまで を繰り返す。 ・児童の対話では, とまどっている子を援助する。 ・どの病名も言えたり聞けたりしたか確認する。 ・おはじきの数を英語で確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の単語の提示は徐々に速くしていく。 ・楽しむことを第一とする。 ・おはじきは薬を意味する。残りがたくさんでなくてもよい。すべてなくなったらまた5個あげて続けて努力するよう励ます。 ・同じ病名は使わないでなるべく多くの言葉を使うよう留意させ, 何度も挑戦する子を認め励ます。 ・孤立する子がいないよう配慮する。 ・うまく言える子を認め他の子を助けてあげるよう促す。また, うまくできなくても, 一生懸命多くの子と取り組んだ子を認める。 				